

ペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメント(続報)

令和8年5月27日

(6月2日追記)

石油化学産業は、製造業の最上流に位置し、原油を精製して作られる石油製品の一種であるナフサ等を原料とするプラスチック等の石油化学製品を、日用雑貨品、食品包装材、衣料といった身の回り品や自動車、家電・電子機器等の様々な製品の素材として供給する産業である。

2月末のホルムズ海峡の実質封鎖以来、当協会の各会員企業においては、国内石油精製からのナフサ調達の継続、中東以外からのナフサ調達の拡大及び製品在庫の活用により、石油化学製品の供給継続に全力を尽くしている。

現在のところ、令和8年3月及び4月ともに国内出荷においては、製品毎に差は見られるが全体として供給は維持できており、ポリエチレンやポリプロピレンといった主要石油化学製品の在庫についても国内需要の3ヶ月以上の水準を維持している。

また、会員各社による継続的な中東以外の地域からのナフサの代替調達の確保が進み、従来は2割程度であった中東以外からの輸入ナフサの量は5月には大幅に増加する見込みとなっている。

政府からもナフサ由来の化学製品の供給は年を越えて継続できる見込とされており、石油化学製品の供給は、5月以降も平年並みの供給が見込まれており、引き続き需要を満たすべく安定供給を維持していく。

当協会としては、引き続き、国及び会員企業と密接に連携しつつ関連情報収集や必要な措置の徹底など安定供給に必要な対応を行っていくこととしている。

トルエン等については、政府の方針を踏まえ、シンナー・塗料メーカーからの要請に応じて、石油精製産業と連携して、供給力の強化(最大で例年の8割増程度)に取り組んでいく。

最後に、当協会としては、事態が一刻も早く収束し、ペルシャ湾地域における船舶の安全航行が回復することを強く求めるものである。

【本件に関するお問合せ】

石油化学工業協会

志村、武井 TEL 03-3297-2019